

2007年実施 国語 新傾向入試問題選



● 鹿見島 ●

次の文章は、「自慢するは下手芸といふこと」という話の後半部分です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

ある者座敷を立てて絵を描かす。白鷺のしらさぎ一色いちしきを望む。絵描き、

「心得たり。」とて作って焼筆やきふでをあつる。亭主ていしゅのいはく、「いづれもよささう（承知しました）

なれども、この白鷺の飛びあがりたる、が（主人）かやうでは飛ばれまい。（どれも一見よくできて

と言ふ。絵描きのいはく、「いやいやこの飛び様かやうが第一（このよう）の出来物ぢや。」（もつともすばらしいところなのだ）

と言ふうちに、本の白鷺が四五羽うちつれて飛ぶ。亭主これを見て、「あれ見給へ。あのやうに描きたいものぢや。」と言へば、絵描きこれを見

て、「いやいやあの羽はづかひではあつてこそ、それがしが描いたやうには

え飛ぶまい。」と言ふた。（あ羽の使い方では） （私）

（注）一色（本物の）|| 他（私）のものを交えないこと。ここでは白鷺だけを描いた絵の意。

焼筆|| 柳などの細長い木の端を焼きこがして作った筆。

● ● ●

問一 に入る最も適切な言葉を、文章中から四字で抜き出して書

きなさい。

問二——線「あのやうに描きたいものぢや」とは、どのように描いてもらいたいのですか。具体的に書きなさい。

問三 本文の内容と合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 絵描きは、絵を頼んだ主人が納得する白鷺の絵を上手に描いた。

イ 絵描きは、主人に依頼された白鷺の絵を本物を見ながら描いた。

ウ 主人は、絵描きに描いてもらった白鷺の絵に満足できなかった。

エ 主人は、白鷺の絵を上手に描いてもらうために本物を飛ばした。

問四 新傾向 次は、この文章についての授業の一場面です。

・ II に適切な言葉を補いなさい。ただし、 I は文章中から十

五字以内で抜き出し、 II は自分の言葉で答えること。

先生 「では、この話のおもしろさについて考えてみましょう。本文

中に何か手がかりはありませんか。A君、どう？」

生徒 A 「僕ですか。ええと、『 I 』と自信たつぷりに言っ

ているところが、手がかりになると思います。」

先生 「なるほど、ここはぜひ押さえたいたい大切な表現ですね。絵描き

の言葉には注意が必要です。ほかはどうですか。」

生徒 B 「はい。最後にある『それがしが描いたやうにはえ飛ぶまい』

というところも大切だと思います。」

